

3月 中田哲也さんに聞く「フード・マイレー 21日 ジ」と「新版」刊行おめでとうの会

公開・主催者: 森の食卓

フード・マイレージ - あなたの食が地球を変える-

ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」主宰 中田哲也 http://food-mileage.jp/ Mail:foodmileage@jcom.home.ne.jp

注:本資料にある意見等は、中田の個人的なものです。

自己紹介

1960年、徳島県徳島市生まれ。

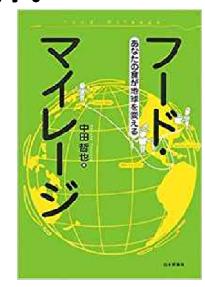
1982年3月、岡山大学農学部卒業。2012年3月、千葉大学大学院園芸学研究科修了。博士(農学)。

82年4月、農林水産省入省。

2001年4月~03年7月の間、農林水産政策研究所において、篠原孝所長(現・衆議院議員)の指導の下、フード・マイレージに関する研究に従事。

その後、関東農政局(さいたま市)、九州農政局(熊本市)、 北陸農政局(金沢市)等を経て、統計部数理官(現職)。

個人的なライフワークとしてフード・マイレージの普及等に取組み。ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」を主宰。 (ブログ、メルマガ等) http://food-mileage.jp



著書

「フード・マイレージーあなたの食が地球を変える」(2007.9、日本評論社) 同・新刊(2018.1)

「フードシステム革新のニューウェーブ」(2016.3、日本経済評論社)

目次(構成)

はじめに

Chapter 1 フード・マイレージを考える背景

Chapter 2 私たちの食と地球環境問題

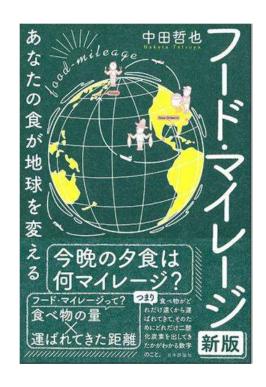
Chapter 3 フード・マイレージの考え方と輸入食料のフード・マイレージ

Chapter 4 フード・マイレージと地産地消、食育

Chapter 5 フード・マイレージから「食」を考える

Q&A (新規)

旧版へのあとがき 新版へのあとがき 参考表1~3 参考・引用文献



Chapter 1 フード・マイレージを考える背景 (1)食に関する情報の氾濫

表1-1 テレビにおける「食」関連番組の割合

(単位:分、%)

年月日	総放送時間 [A]	「食」関連 [B]	[B/A]
8 日 28 日 (月)	8,640	3,641	42.1%
8 日 29 日 (火)	8,640	4,764	55.1%
8 日 30 日 (水)	8,640	3,861	44.7%
8 日 31 日 (木)	8,640	3,688	42.7%
9 日 1 日 (金)	8,640	3,192	36.9%
9 日 2 日 (土)	8,640	2,764	32.0%
9 日 3 日 (日)	8,640	1,574	18.2%
1週間計	60,480	23,484	38.8%

- 注:1) 新聞及びインターネットのテレビ番組欄を基にした集計である (東京のNHK総合及び民放5局)。

〇 フードファディズムという病

- ・強い健康志向
- ・テレビの情報・バラエティ番組(納豆(捏造)事件→番組打ち切り)

図1-1 消費者の分類(徳野貞雄氏)

農産物の価値が分かる

52.4%

③分裂型消費者層

意識と行動が分離している (風評被害を起こしやすい)

5.4%

①期待される消費者層

農業の価値が分かり、金も払う。

(有機産直農家との連携)

金を支払わない

23.0%

④どうしようもない 消費者層

農に対して無関心。 (エサ<市場>を食べてしぶとく 生き残る) 16.5%

②健康志向型消費者層

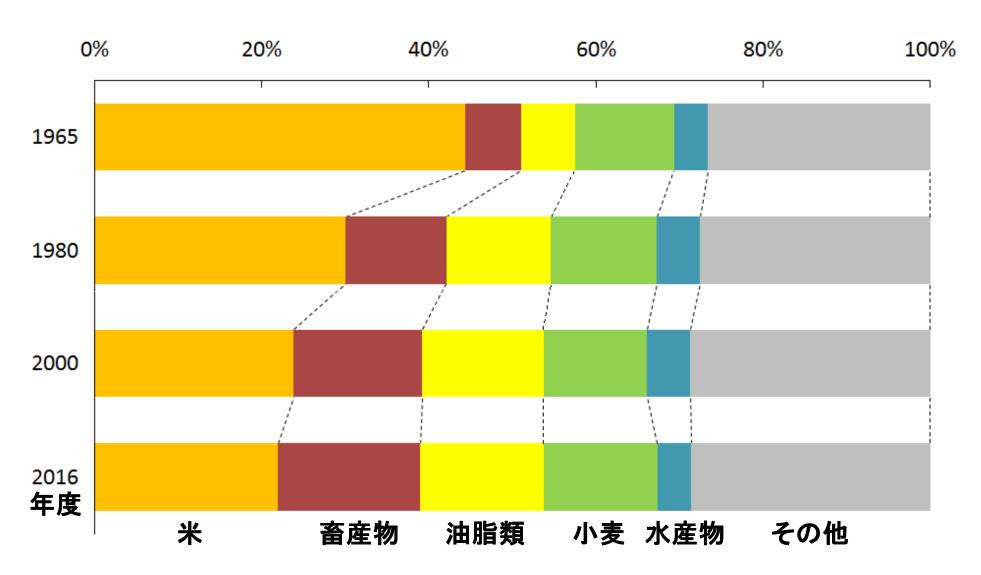
食の安全性に強い関心。(生協周辺に多い)

農産物の価値が分からない

「私も消費者の一人。当事者として一緒に考えていきたい」(まえがき)

金を支払う

図1-3 食生活の変化(供給熱量の構成比の推移)

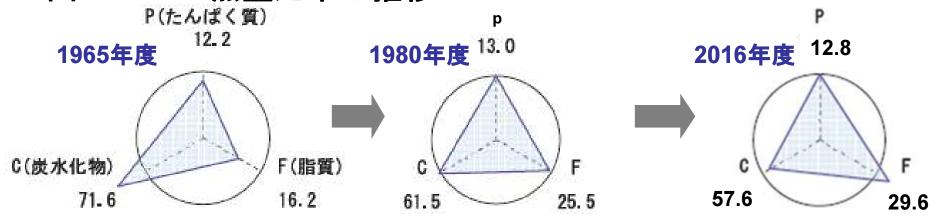


資料:農林水産省「食料需給表」

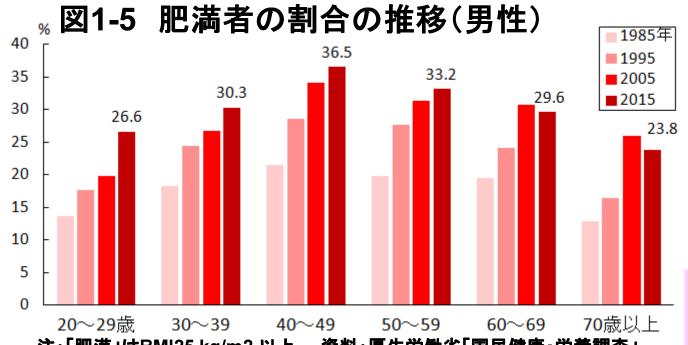
注:2016年度は概算値

栄養バランスの崩れ

図1-4 PFC熱量比率の推移



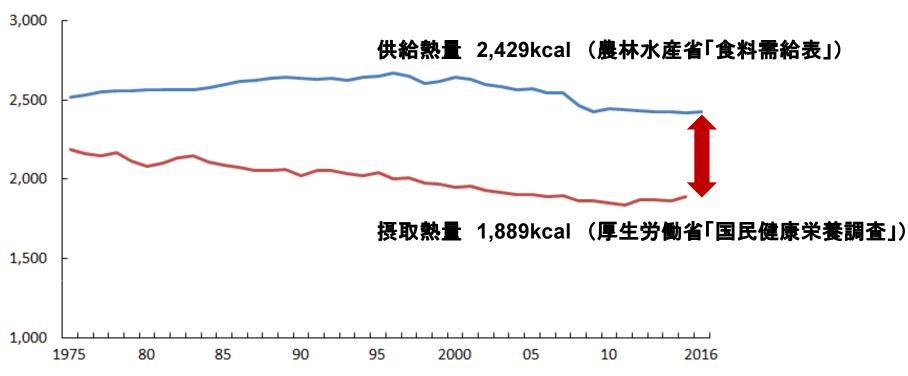
資料:農林水産省「食料需給表」



注:「肥満」はBMI25 kg/m2 以上。 資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査」

メタボリック・₇ シンドローム

図1-6 供給熱量と摂取熱量の推移(1人1日当たり)



日本の食品廃棄物等排出量 12,775*万トン*(2014年度推計)

うち「食品ロス」(食べられる部分)

621万トン

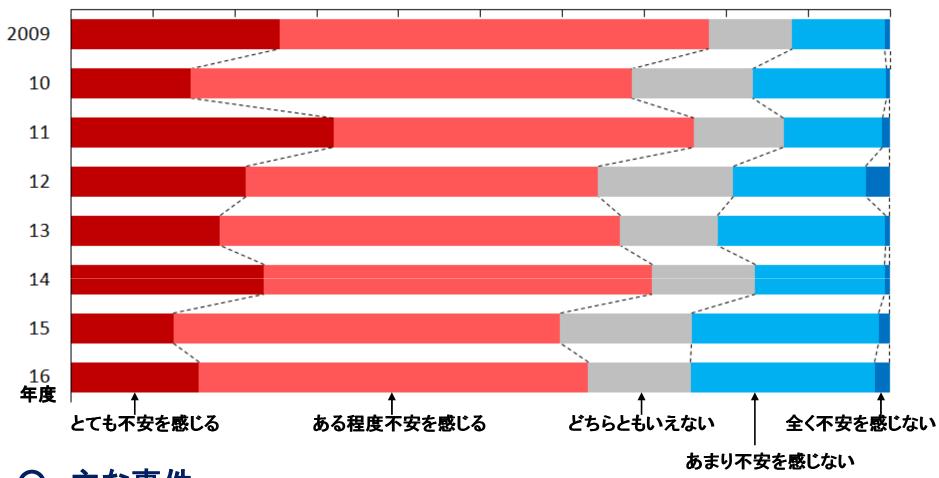
事業系:339万/ン

家庭系: 282万トン



写真:京都市

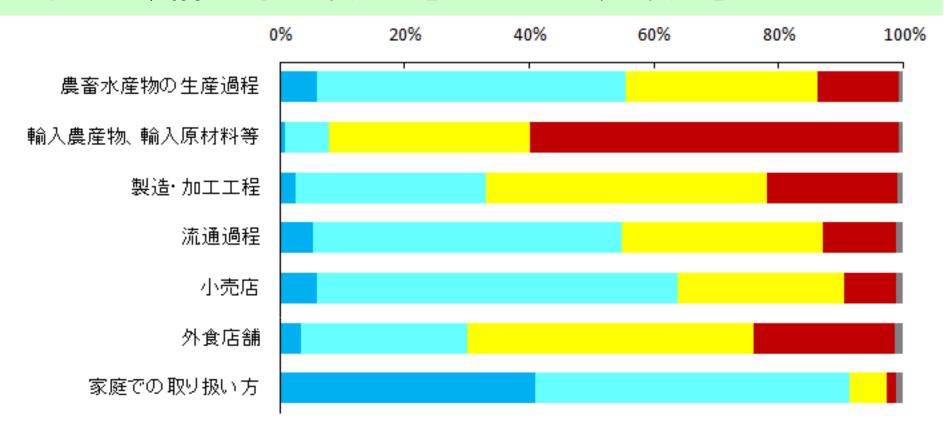
図1-7 食の安全への相対的な不安感 (消費者庁・モニター報告)



〇 主な事件

- 2001.9 日本国内で始めてBSE感染牛を確認。
- 2008.1 中国からの輸入冷凍餃子による健康被害が発生。
- 2008.9 一部の米穀業者が非食用に限定された輸入事故米を非食用として転売。
- 2011.3 東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発事故。

図1-9 食品に対して安心と感じているか、不安と感じているか



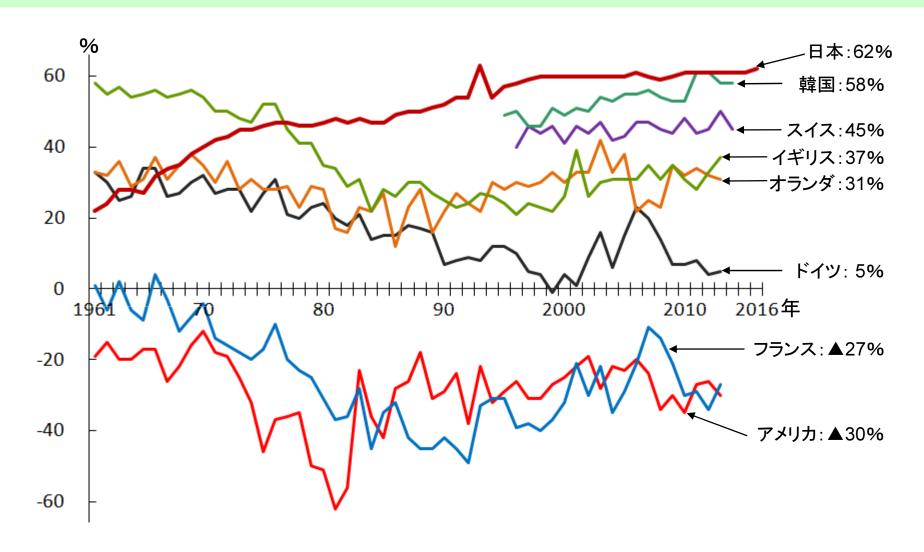
■安心 であるかというと安心 であるかというと不安 不安 無無回答

資料:農林水産省「平成19年度 食料品消費モニター第3回定期調査結果」(2008年1月調査) 注:食料品消費モニター(全国主要都市に在住する一般消費者)1,201名を対象とした アンケート調査結果である。

安全 ≠ 安心



図1-10 食料の海外依存率の推移(カロリーベース)



資料:農林水産省「食料需給表」

注:食料の海外依存率=100-食料自給率

図1-11 供給熱量の変化と海外依存率の推移

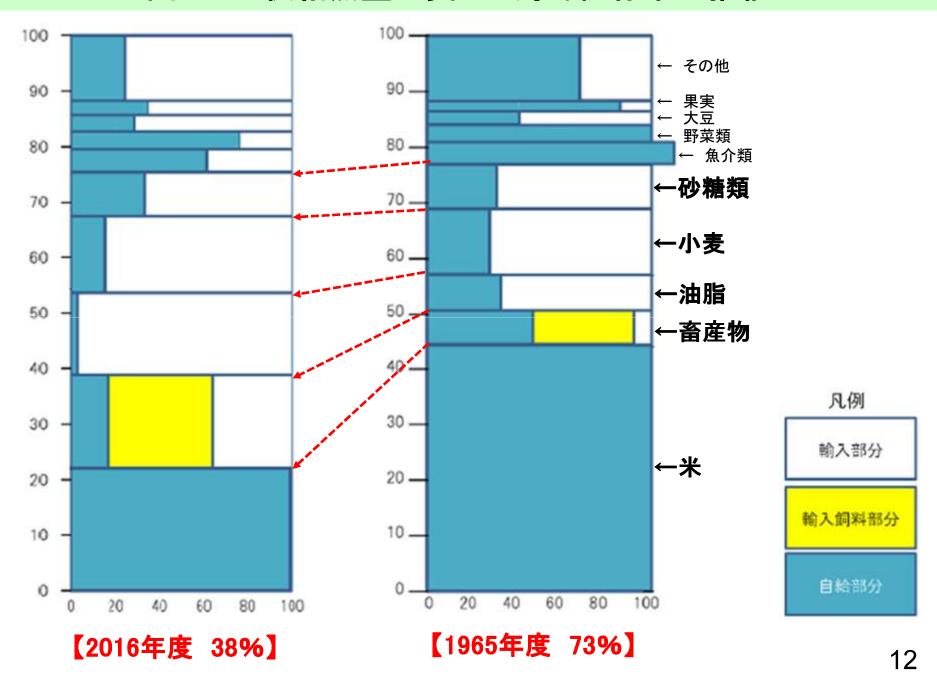
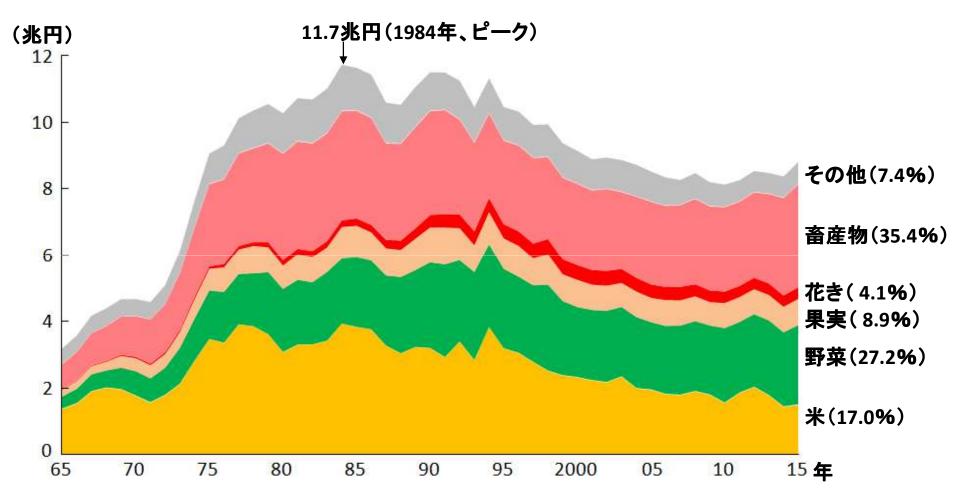
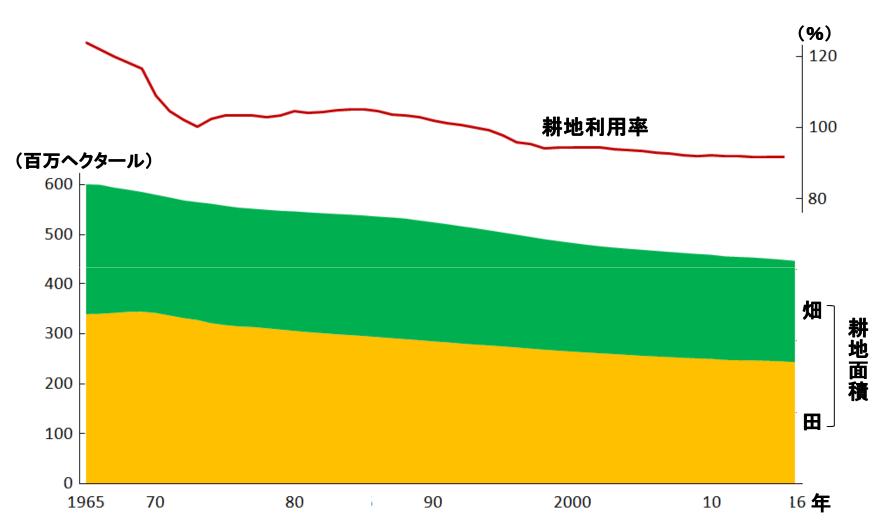


図1-12 農業産出額の推移



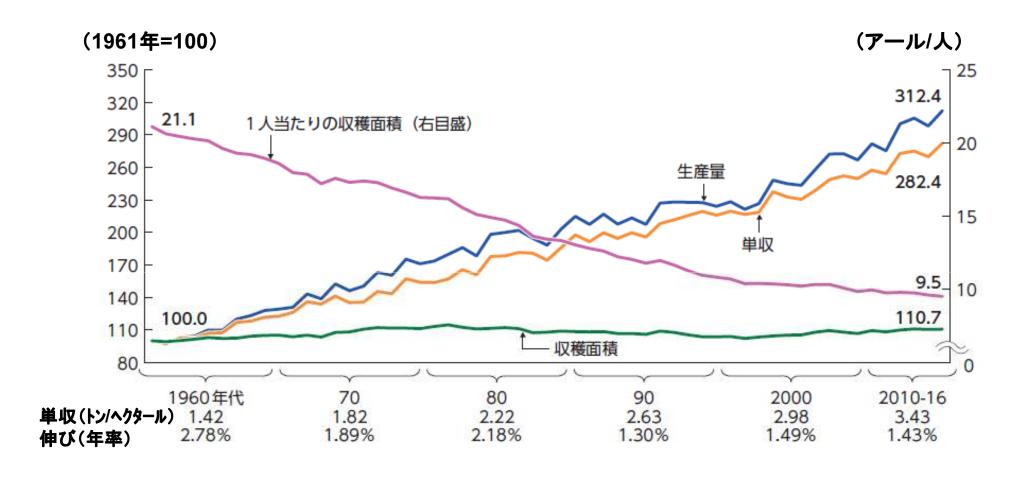
資料:農林水産省「生産農業所得統計」

図1-13 耕地面積と耕地利用率の推移



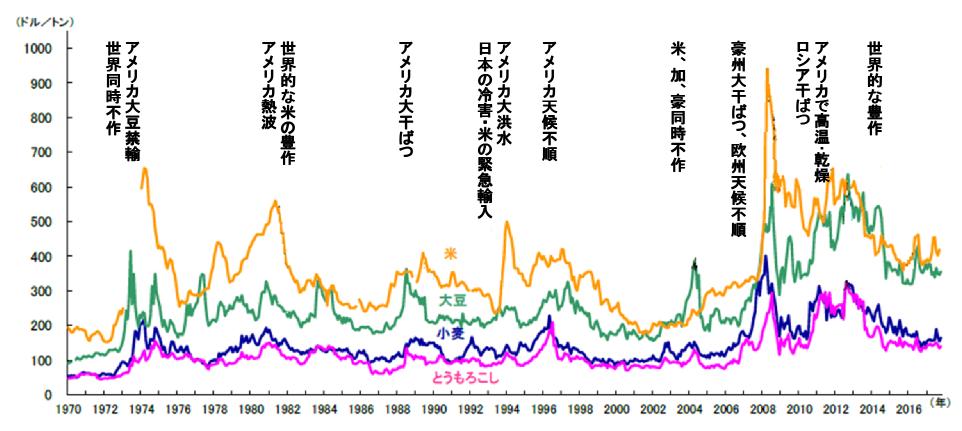
資料:農林水産省「作物統計」

図2-1 世界の穀物生産量、1人当たりの収穫面積等の推移



出典:農林水産省「平成28年度食料·農業·農村白書」

穀物等の国際価格の動向



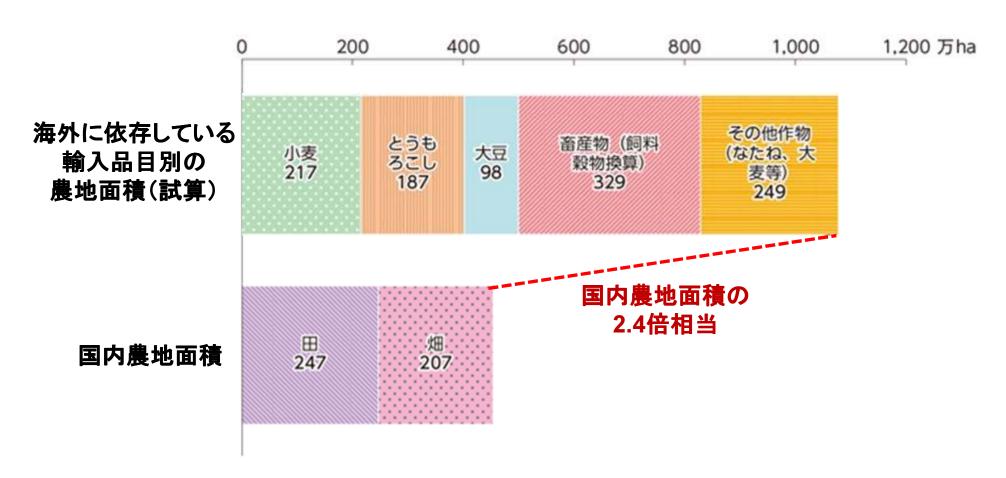
出典:農林水產省資料

注:小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格、米は、タイ国家貿易取引委員会公表による。

畜産物 1kgの生産に要する穀物量

: 牛肉 11kg、豚肉 7kg、鶏肉 4kg、鶏卵 3kg

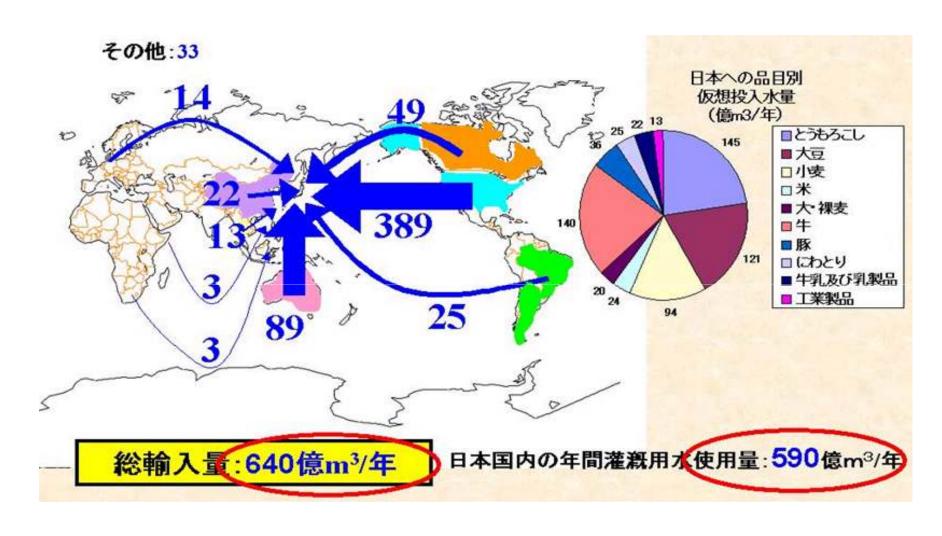
[p..68 イラスト] 海外(の農地)に依存している日本人の食



資料:農林水産省「食料需給表」、「耕地及び作付面積」等を基に農林水産省で試算。

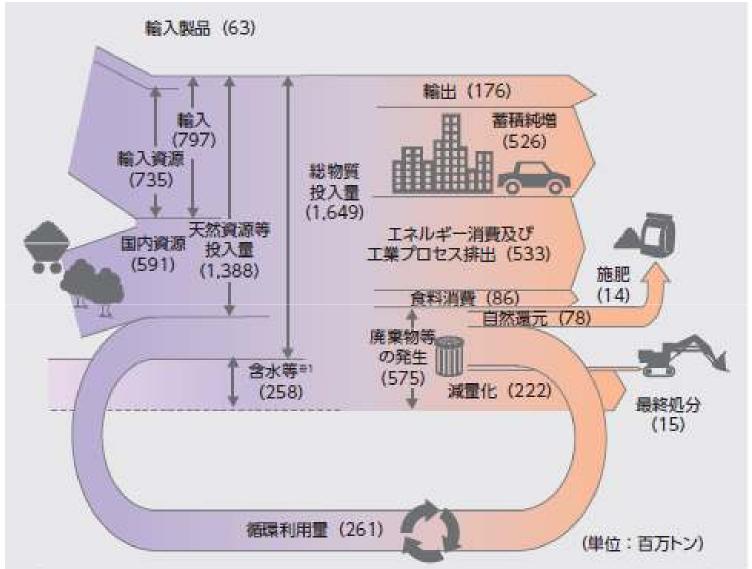
注:試算に際しては、1年1作を前提。 出典:2016年度食料・農業・農村白書

図2-2 日本への仮想投入水量



出典:東京大学生産技術研究所 (沖大幹教授などのグループ、2003)

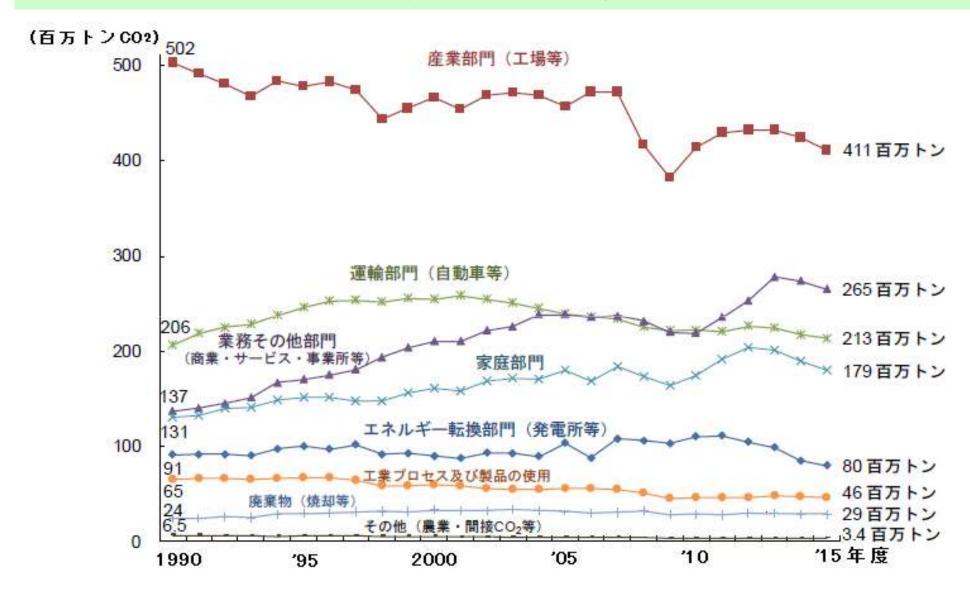
[p..76 イラスト]非常にアンバランスな日本の物質収支



※1:含水等:廃棄物等の含水等(汚泥、家畜ふん尿、し尿、廃酸、廃アルカリ)及び経済; 活動に伴う土砂等の随伴投入(鉱業、建設業、上水道業の汚泥及び鉱業の鉱さい)

出典:環境省「2017年版環境・循環型社会・生物多様性白書」

図2-5 二酸化炭素の部門別排出量の推移



出典:環境省「2015年度(平成27年度)の温室効果ガス排出量(確報値)について」

「フード・マイレージ」とは

O イギリスの"Food Miles"運動

: 「なるべく近くで取れたものを食べることにより、食料輸送に伴う環境負荷を低減。」

〇 考え方、計算方法は簡単

: 食料の輸送量 × 輸送距離

単位:t·km(トン・キロメートル)

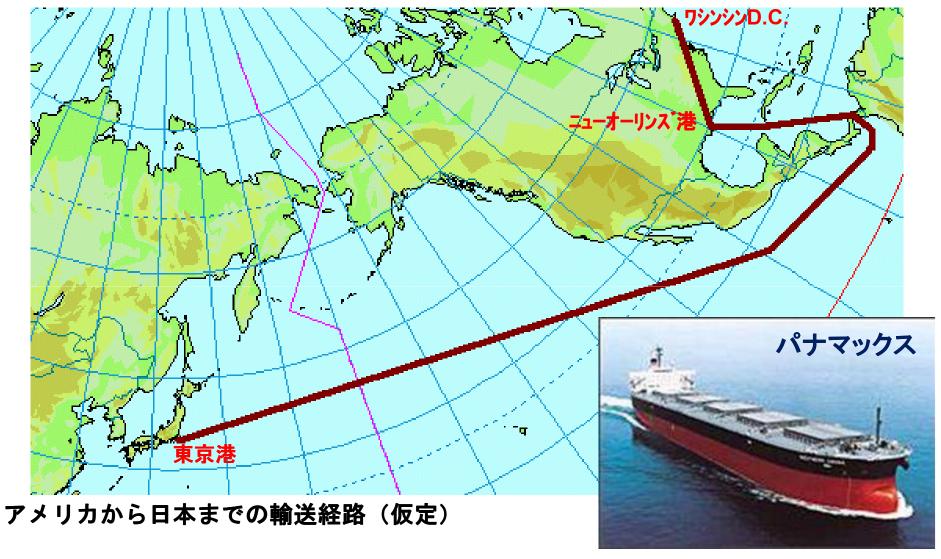
〇 特色

食料の供給構造を物量とその輸送距離により把握

- 食の安定供給、安全性の確保(トレーサビリティ)
- 「食」と「農」の間の距離の計測
- 食料の輸入が地球環境に与える負荷の把握

cf. 食料自給率:距離の概念を含まず。

[イラスト p.105] 輸送経路と距離の仮定(アメリカからの輸入の例)



: ワシントンDC(首都) → ニューオーリンズ港 → 東京港 [直線距離 1,559 km] [海上輸送距離 16,929 km] 22 (内航水運とトラックが半々) (外航船舶)

図3-1 各国のフード・マイレージの比較(総量、品目別)

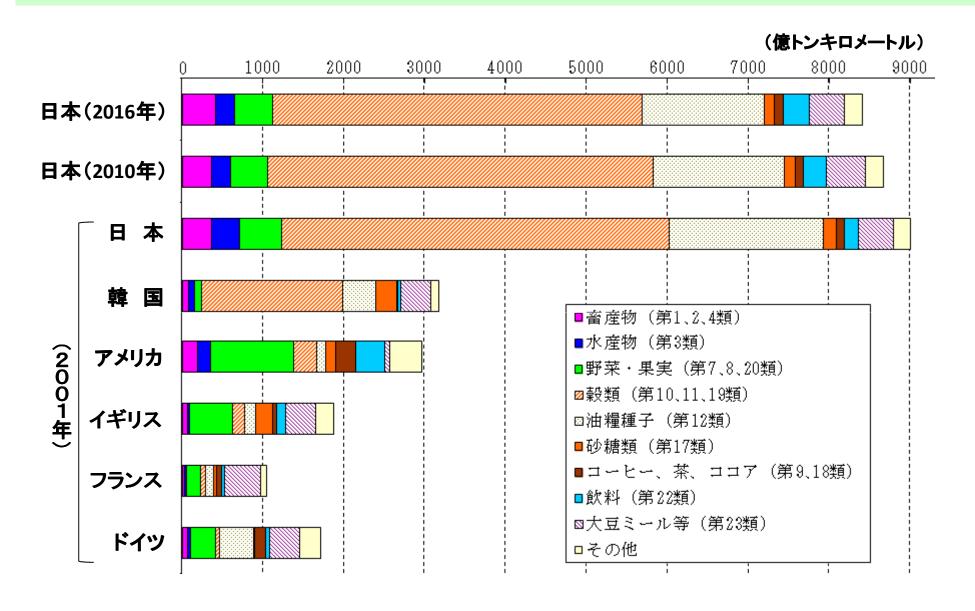
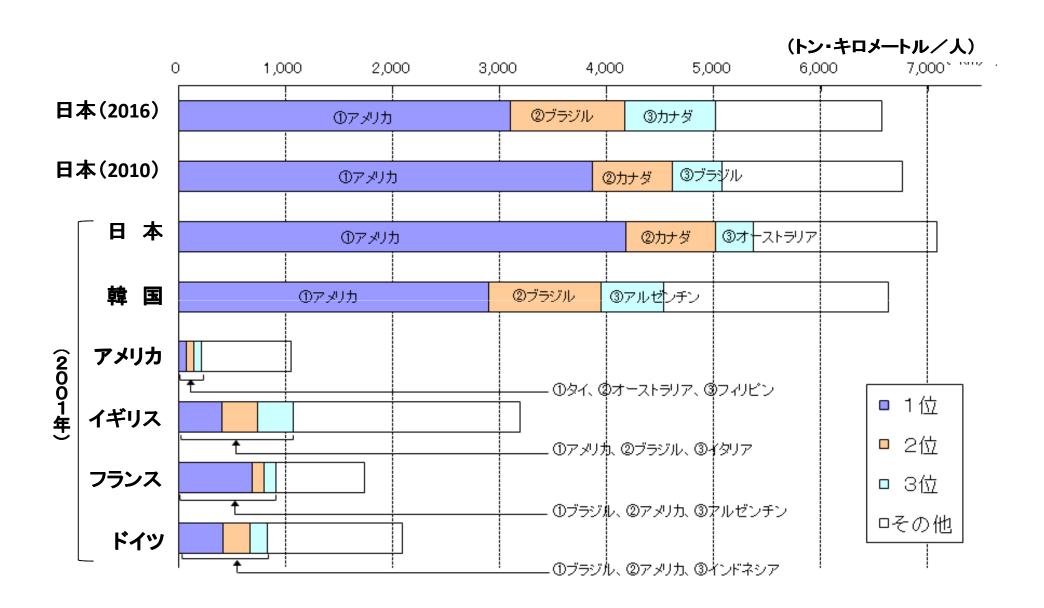
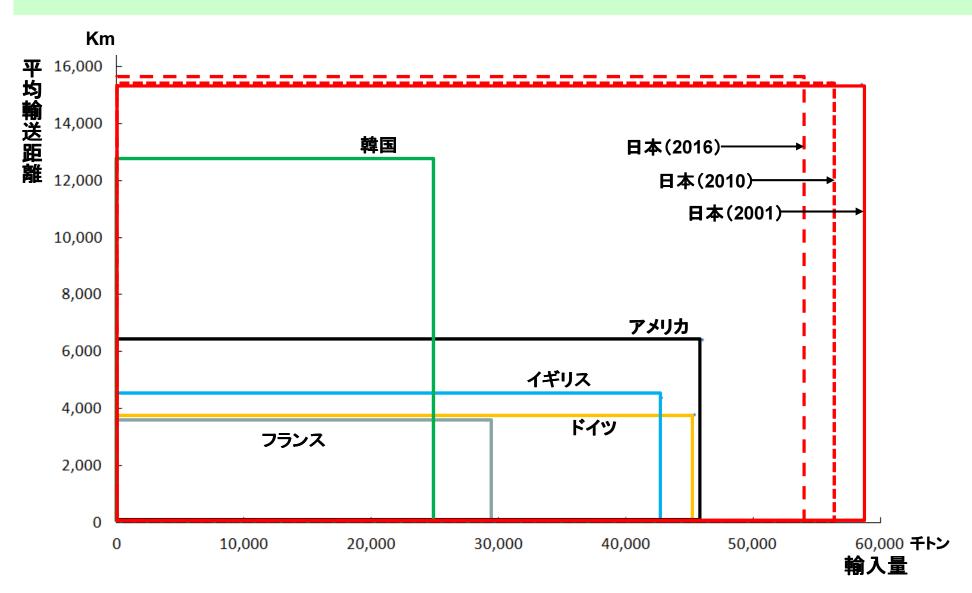


図3-2 各国のフード・マイレージの比較(1人当たり、輸入相手国別)



[イラストp.116] 各国の輸入食料のフード・マイレージの比較 (輸入量と平均輸送距離)



注:日本以外は2001年の数値。

図3-3 主要4品目のフード・マイレージ等の推移

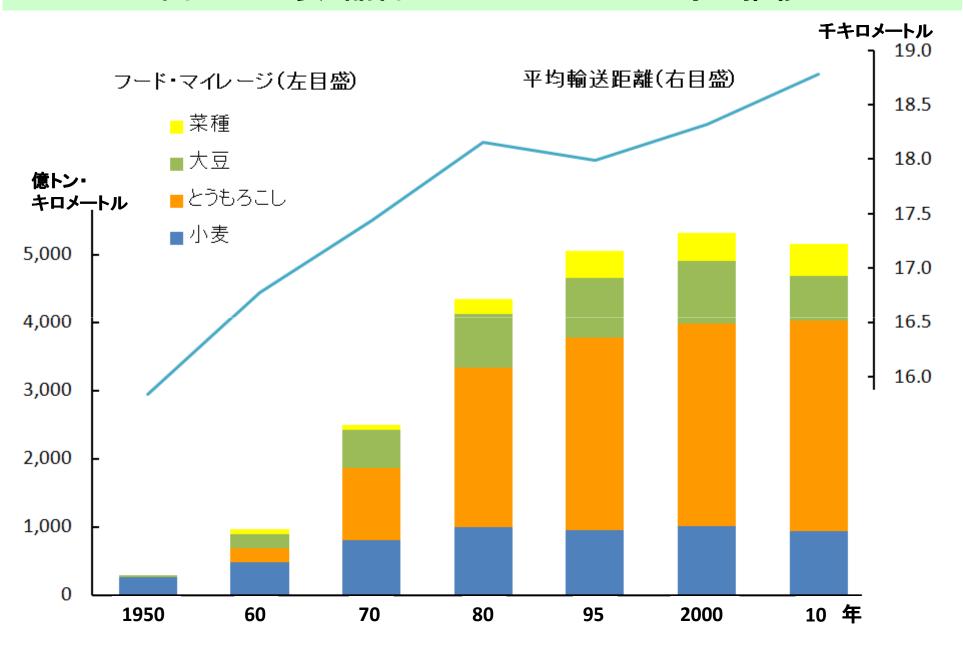
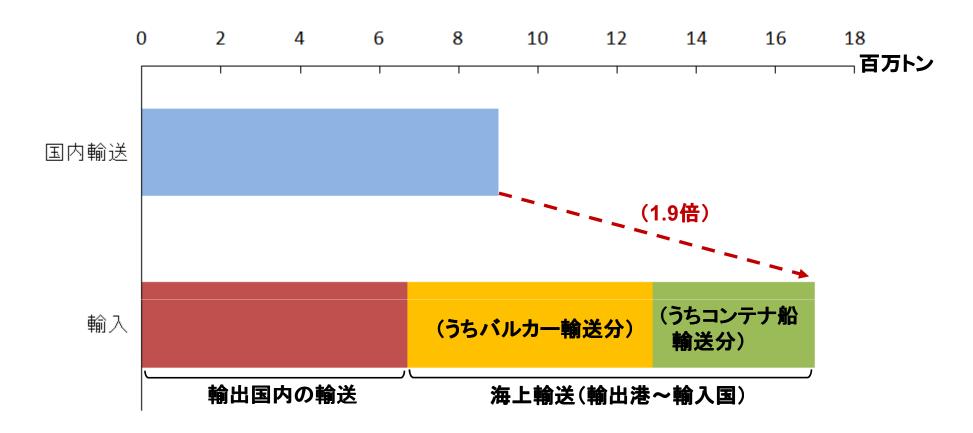
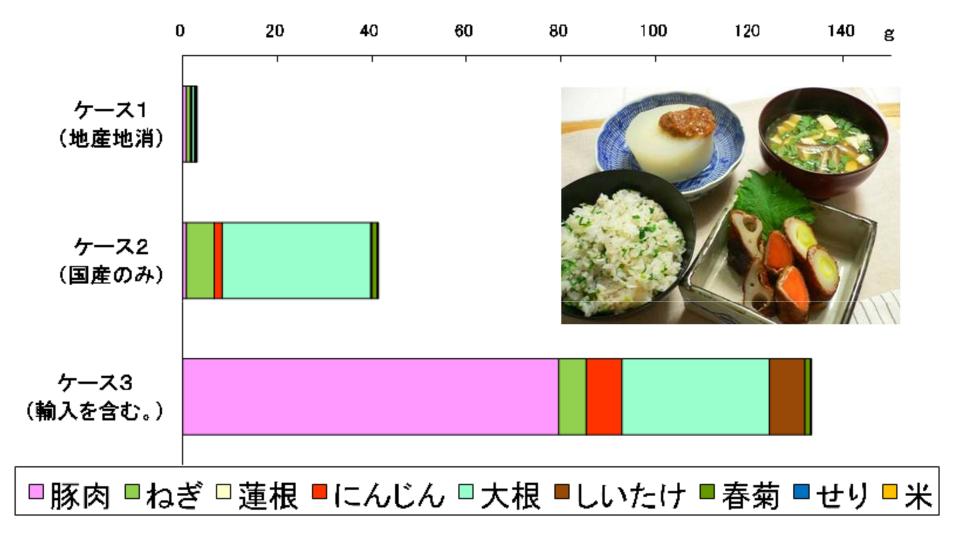


表3-4 食料輸送に伴う二酸化炭素排出量の推計



注:日本国内における食料輸送(輸入食料を含む。)に伴う二酸化炭素排出量と、輸入の過程 (輸出国内及び海上輸送部分)における輸送に伴う二酸化炭素排出量のおおよその傾向を把 握するため、各種資料を基に試算したものである。

表4-2 加賀野菜などを用いた献立のCO2排出量の試算



注:ケース1 加賀野菜など地元産食材を使用した場合(地産地消)

ケース2 仮に市場で国産食材を選んで調達した場合(国産のみ)

ケース3 仮に市場で輸入食材も含め調達した場合(輸入品を含む)

地産地消は地球を救う?ーフード・マイレージの限界

1 輸送機関による環境負荷の違い

二酸化炭素排出係数 (出典:国土交通省「交通関係エネルギー要覧」、平13・14年版)

営業用普通トラック 180 g-C02 / t·km

鉄 道 22

外航船舶 (バルカー) 10

(コンテナ) 21



2 フード・マイレージは輸送に限定された指標 生産や加工、消費、廃棄面での環境負荷は考慮せず。

: 例えば、粗放的に生産された食品を船で輸入すれば、国内で 集約的に生産するより、トータルの環境負荷は小さくなる可能性。

LCA、カーボンフットプリント



フード・マイレージのメリット

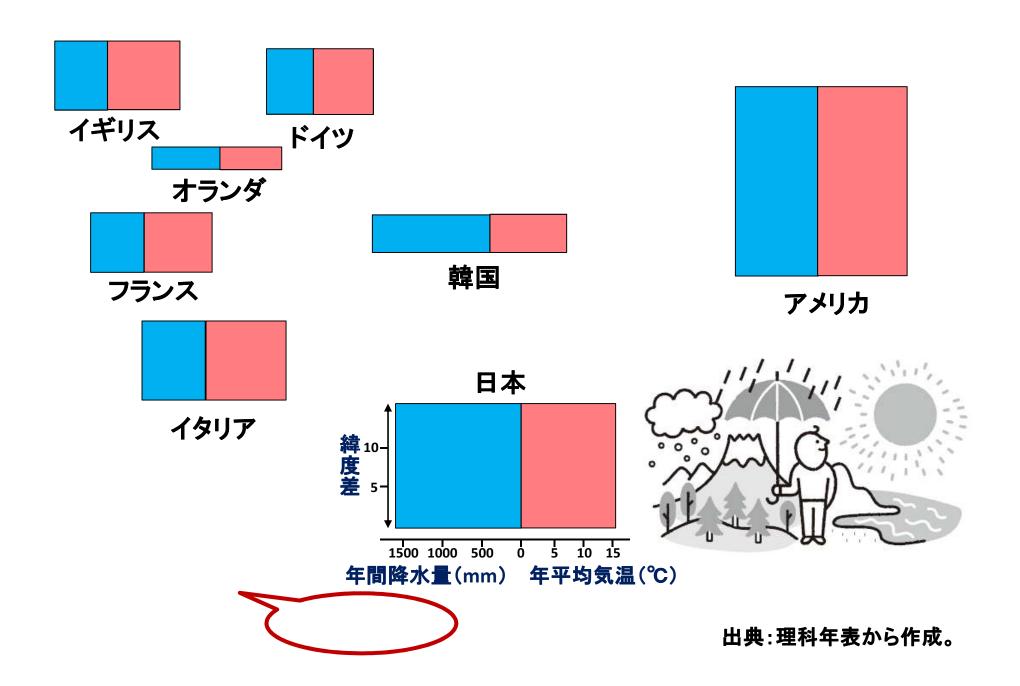
日々の食生活が地球環境とつながっていることに気付くヒントに

→ 旬産旬消、なるべく食べ残しをしない

Q&A

- Q-1 なぜカタカナ英語を使うのか。
 - →「食料の総輸送量・距離」:かえってはん雑。
- Q-5 エネルギーなど多くの物資を輸入している日本で、食料だけ、 取り上げても意味がないのではないか。
 - →「グッズ・マイレージ」といった指標が必要。ただし食は自給可能。

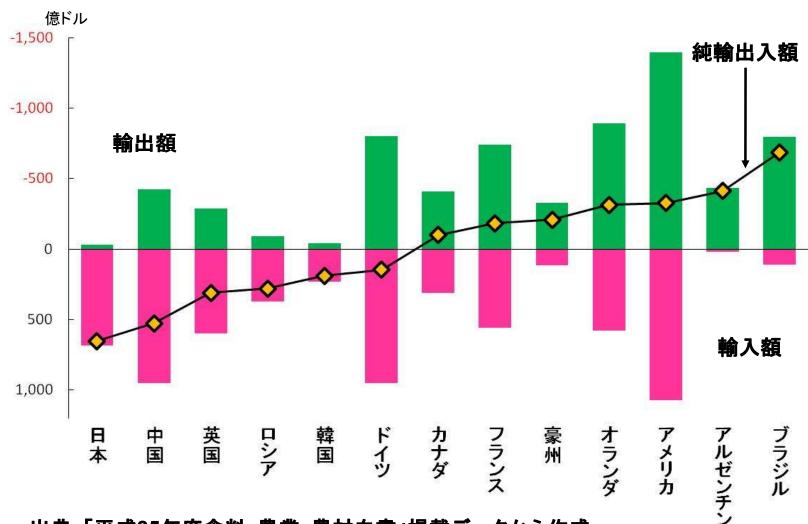
[イラスト p.200] 各国の「風土資源」の比較



Q&A

- Q-1 なぜカタカナ英語を使うのか。
 - →「食料の総輸送量・距離」:かえってはん雑。
- Q-5 エネルギーなど多くの物資を輸入している日本で、食料だけ、 取り上げても意味がないのではないか。
 - →「グッズ・マイレージ」といった指標が必要。ただし食は自給可能。
- Q-6 国内畜産はやめて畜産物を直接輸入するようにすれば、 フード・マイレージは大きく削減できるのではないか。
 - → 最終的に口に入る食品は、なるべく近くで生産した方が望ましい。
- Q-7 地産地消にさえ努めれば、地球環境問題が解決するように 言うのは間違いではないか。
 - → 地産地消だけでは不十分。生産面などLCAの観点が重要。
- Q-8、9 フード・マイレージの観点からは、TPP参加や輸出促進 政策は望ましくないのではないか。
 - → 輸入はほとんど自由化。輸出入のバランスが重要。

農産物の純輸出入額(2011年)



出典:「平成25年度食料・農業・農村白書」掲載データから作成。

原注:FAO「FAOSTAT」を基に農林水産省で作成。

EU加盟国の輸入額、輸出額はEU域内の貿易額を含む。

ご清聴ありがとうございました。 さらに、ご関心を持たれた方は・・・



フード・マイレージ 資料室 (分室) @foodmileage

ホーム



ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」

http://food-mileage.jp/

FBページ「フード・マイレージ資料室(分室)」

https://www.facebook.com/foodmileage/

ブログ「新・伏臥漫録」

http://food-mileage.jp/category/blog/

メルマガ「F.M.Letterーフード・マイレージ資料室通信」

http://www.mag2.com/m/0001579997.html

コツコツ小咄も あるよ!